



登場人物

杉木さん（33歳）、嶋中さん（59歳）

年の瀬も差し迫ったある日曜日、杉木さんは人がいなくなって静かになった居間のソファに、一人で寝転んでいました。妻と子供たちは、朝から新しくできたショッピングセンターに行くと張り切って出ていっていました。テレビもつけっぱなしでウトウトしていると、突然玄関の戸が開きました。

「杉木くーん、おるか？」

杉木さん（以下、杉）：嶋中さん、どうしはったんですか。

隣に住むしぶい声の嶋中さんであった。

嶋中（以下、嶋）：ちょっと相談したいことがあるんやけどええやろか？今ちょうど一人やったんか、ちょうど良かった。

杉：え、えーまあ一人は一人ですけど・・・

嶋中さんは杉木さんのねむそうな顔をよそ目に話し始めました。

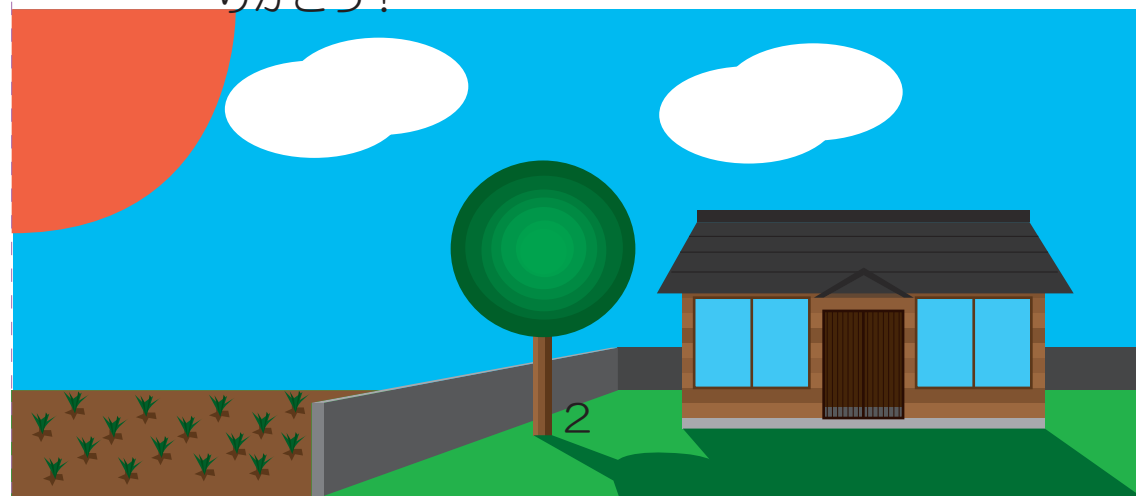
嶋：うちの家もう建てて50年以上経つんや。それでいろいろガタもきてるし、いっそ建替えしようと思ってな。杉木くん、建物のこととかいろいろ知っているやろ、役所にもいろいろ話に行ってるて聞いたんで、教えてもらおうと思ってな。

杉：なるほどそういうことでしたか。

嶋：で、どうやったら建替えできるんや！？なにすればええんや？！どんな・・・

杉：ちょ、ちょっとまってください！建替えするにもいろいろありますし…わかりました。明後日ちょうど会社も休みなので、一緒に市役所に聞きにいきましょう。

嶋：そうか！わかった。じゃあ明後日たのむで！ありがとう！



そうすると嶋中さんは慌しく帰っていきました。杉木さんは、火曜日に市役所に行くことになってしまったのです。

(火曜日、市役所にて・・・)

嶋：自分の家を建替えようとおもってるんやけど、なにをしたらええんやろ？

職員（以下、職）：建物を建てるにはいろいろなルールがあります。まずは嶋中さんの土地がどの用途地域になっているかを調べましょう。用途地域というのは・・・

杉：地域ごとに建てることのできる建築物のルールが決まっているんですわ。嶋中さんのところの用途地域はうちのとなりやし第一種住居地域やと思いますわ。この用途地域の載っている地図で確認できるんです…ほら。

嶋：本当や、第一種住居地域ってかいてあるな。さすが杉木くん、よく知ってるな。

杉：ほかにもいろいろなルールがあるんです。まずは自分の土地でどういうルールが決まっているか、それぞれ調べていくんですよ。

職：そ、そうなんです。それらのルールを守りながら建物を建ててもらい必要があるんです。そして建物の設計が決まれば、建築確認申請をしてもらうことになります。

嶋：ケンチクカクニン？？？杉木くん、なんやそれ？？

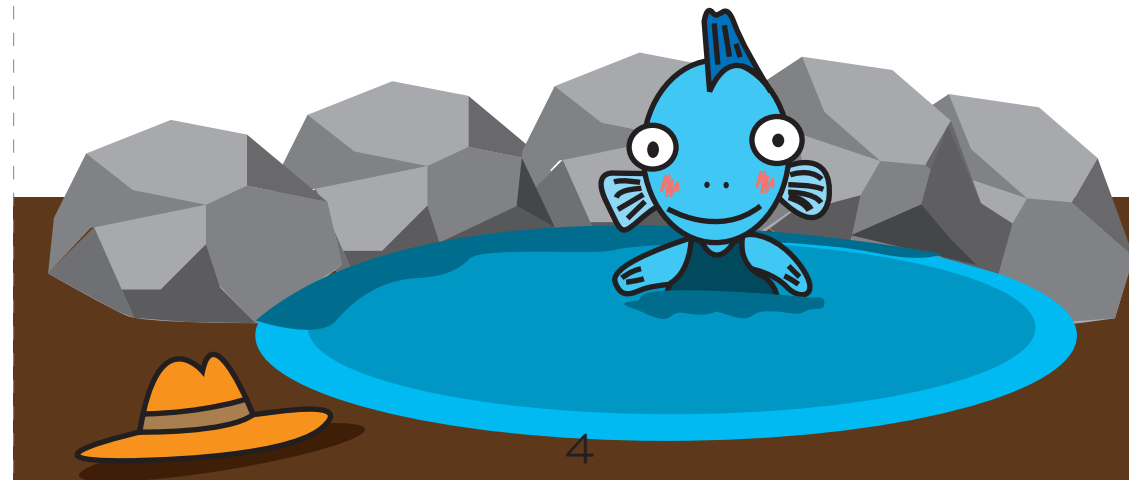
杉：ケ、ケンチクカクニン？？？そ、それは・・・

建築確認って！？

まかせてちょうだい！

建物を建てる時には、いろいろな法律やルールがありますが、いくら法律でいろいろルール定めても、皆さんにそのルールを守って建物を建てていただかなくては意味がありません。

建築確認は、まさにそれらのルールを守っているか、確認するための制度なのです。



嶋：ではわしが今回自分の家を建て替えるときにも、建築確認が必要ということなんやな？

職：建築確認とは建物の建築などをする際に受けていただく必要があります。嶋中さんの場合、建て替えるにあたって、建築確認申請をしていただく必要があります。

嶋：そもそもその建築基準法っていうのはどういう法律なんや？

建築基準法って！？

建築基準法とは簡単にいうと、私たちが安全に安心して生活できるように、建物や敷地に最低限のルールを定めたものです。一国一城の主なのだから自分の思いどおりの家を建てたいと思うのは当然ですが、それぞれの人が好き勝手に建物を建てたらどうなるでしょう？

たとえば建築基準法では道路に接しなければ建築することができません。道路に接しないで建物を建てたとすれば、地震や火事になったときに避難できなかったり、道路がないために、火が燃え広がってしまったりするかもしれません。そのような被害を少なくするためにも、建物を安全に建てていただくための様々なルールを決めているのです。

杉：で、その建築確認をだしたらどうなるのですか？

職：内容を確認させていただいて、ルールに合っていると判断できれば、建築が可能になります。

嶋：その建築確認とやらをして、やっとわしの家も完成ということか

職：そういうことになります。あとは建物が実際に建築確認申請の通りに建物ができているか検査をうけてもらう必要があるのです。そうして晴れて新しい家が完成するということになります。

杉：たしかに、私もいろいろと法律や制限は聞いてきたけれど、確かに建物を建てるときに、どうやってそれらをチェックするのかは疑問だったんです



職：建築確認というのはあくまで、皆さんが建物を建てることを制限したり、じゃましたりするものではないんです。

たしかに建築確認にはたくさんの図面をつけてもらう必要もありますし、手間もかかります。でもそれらはすべて、皆さんに安心して暮らしてもらえるようにしてもらっていることなのです。

嶋：そうか。。。今日は家のこともいろいろ分かったし、さっそく家に帰って建替えのこと菜穂子に話すわ。建築確認でチェックしてもらう前に、嫁さんの確認を取らないと建替えもできひんしな。建築確認はその次や！

杉：・・・

職：……。実際には建築確認の手続きは設計者さんと思いますが、建替えをされるのは嶋中さんですので、設計士さんに任せきりではなく、内容をちょっとでも知ってもらってれば、ただ建つまで待っているよりも、ちょっとだけ楽しみが増えるかもしれませんね。

（数週間後）

今年もあと数日となったある日、杉木さんは実家の大掃除に駆り出されていました。

杉：ゴフォ、ゴフォ！いくら大掃除とはいえ、こんな屋根裏まで掃除する必要あるんか！？

おやじも無茶いいよるな。それにしても古いものがいっぱいあるな。。。あれ、これはなんやろ？

杉木さんがホコリだらけの箱を開けると、中にはたくさんの写真と書類が入っていました。写真は実家の新築のとき、撮りためたものでした。

杉：へえー、こうやって見るとこの家も立派にみえるな。この書類は。。。確認申請書、これってこの前市役所で聞いていた建築確認の書類や！

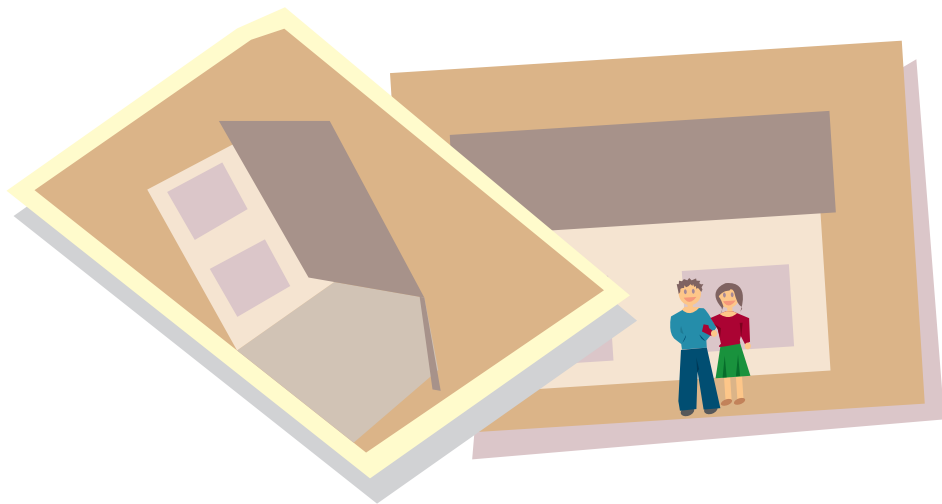


その夜、杉木さんは屋根裏から発掘した写真達と、建築確認に描かれた実家の姿を肴にビールを飲んでいました。

そこにはあちらこちらに鉛筆の跡があり、杉木さんの父の夢への第一歩が刻まれていました。

杉：おやじも、俺たちのことを守るためにいろいろがんばってくれていたんだなあ。

お父さんのこの家に対する想いをあらためて知り、この家により愛着を感じたのでした。



家が暖かいのは、夢や想いや歴史に
包まれているからなんだね。

次回、STORY9
乞うご期待♪

